

平成 20 年度「労働災害調査」結果について

平成 20 年度の「労働災害調査」の結果がまとまりましたので以下にご紹介します。アンケートの回答状況は、表一 1 のとおり、全体では 53.8%（前年度は 50.6%）で、過半を上回りました。

なお、平成 19 年度調査は諸般の事情により実施しておりません。

表一 1 回収率

区分	合計	北海道	東北	東京	新潟	東海	大阪	神姫	中国	九州
組合員数	173	4	7	64	4	32	26	7	8	21
回答社数	93	4	1	34	4	15	15	5	5	10
回収率%	53.8	100.0	14.3	53.1	100.0	46.9	57.7	71.4	62.5	47.6

1. 事故発生件数について

20 年度の厚板シャリング業の事故発生状況を見ると、表一 2 にある通り、死亡事故はゼロであったが、障害等級事故件数は 3 件で、18 年に比べる増加した。損失日数は 2,019 日と、高い水準を示した。

一方、等級査定のない負傷者数は、表一 3 のとおり、「休業を伴う負傷者」は 49 人、「休業を伴わない負傷者」は 135 人と、18 年度に比べるとそれぞれ減少した。

また、1 人当りの年間労働時間数は、平成 14 年頃までは傾向的に減少してきたが、17 年度は 68 時間増、18 年度は 22 時間増、20 年度は 18 年度に比べ 171 時間と大幅に増加した。

表一 2 障害等級該当事故の発生件数

区分	死亡	1~3級	4~6級	7~9級	10級	11級	12級	13級	14級	合計	損失日数
H17年度	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	1,906
H18年度	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1,562
H20年度	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	2,019

表—3 度数率、強度率の推移

	H17年度	H18年度	H20年度
回答社数	93	89	93
年平均労働者数	5,554	5,791	6,420
1人当り労働時間	2,181	2,203	2,374
死傷者数(等級)	0	0	0
負傷者数(休業)	49	54	49
負傷者数(不休)	143	152	135
労働損失日数	1,906	1,562	2,019
度数率	4.21	4.23	3.22
強度率	0.16	0.12	0.13

(注)①労働時間は超過勤務を含む延実労働時間。

②労働損失日数は死亡(7,500日)、身体障害を伴う場合は、等級により50日(14級)～7500日(1-3級)、身体障害を伴わない場合は、休業日数×300/365と設定。

③度数率=(死傷者数÷延べ労働時間)×100万時間

④強度率=(労働損失日数÷延労働時間)×1千時間

2. 度数率及び強度率について

表—4 従業員規模別の度数率、強度率推移

区分	従業員49人未満		50～99人		100人以上	
	度数率	強度率	度数率	強度率	度数率	強度率
平成17年度	7.91	0.12	3.29	0.12	2.76	0.20
平成18年度	6.10	0.10	4.93	0.09	3.12	0.15
平成20年度	9.46	0.10	2.83	0.09	0.90	0.15

【参考】厚生労働省の平成19年「労働災害動向調査」

	度数率	強度率	備考
製造業	3.07	0.24	事業所規模 30～99人
うち 金属製品製造業	4.73	0.11	〃